

Course number		U-LAS06 20031 LJ43					
Course title (and course title in English)		統計リテラシー Literacy of statistical data		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer,FUJII TERUAKI	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Jurisprudence, Politics and Economics(Issues)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
Year/semesters		2025・First semester		Number of credits		2	
Days and periods		Tue.4		Target year		All students	
Eligible students		For all majors		Year/semesters		2025・First semester	
[Overview and purpose of the course]							
科学方法論として統計学の特徴を深く理解し、公的統計を中心とする社会統計を利用できるようになるための基礎的科目である。 近代統計の提供形式に沿って公表されている特性値などを説明する。 科学研究の実験的方法、アンケート調査、公的データの二次利用などによって、個別データを得ることが出来る場合について、履修後の学生が自分で探求し、またはレポートを読んで理解する上で必要な、基本的な統計処理の意味を説明する。 現代社会で統計が作成され、利用される意味、近現代の統計制度を理解した上で、公表されている公的統計を利用できるようにする。							
[Course objectives]							
社会データの持つ変異の特徴を多面的に説明できる。 統計的方法を用いて統計データから規則性をみつけることができる。 社会データの作成と提供のあり方を記述できる。 実際に提供されている公的データを適切に利用できる。							
[Course schedule and contents)]							
第1回 (序説:統計は何を明らかにするか)+本格初回:度数分布と分布の形 第2回集団の代表値 第3回散らばりの尺度 第4回期待値の性質と変数の標準化 第5回正規分布。その生成過程、形状、利用法 第6回共分散と相関 第7回相関と回帰 第8回多変量回帰を利用した原因の探索 第9回近代統計の成立 第10回現代制度統計の課題：統計過程、統計の公共性の視点から。 日本の統計制度:近代統計の導入から戦時体制まで 第11回戦後統計法の成立と課題 第12回現代日本の統計制度:統計改革と2006年統計法 第13回人口統計（1）出生率、死亡率、人口移動の把握 第14回人口統計（2）高齢化、少子化の考察 （第15週）定期試験 （第16週）第15回（授業時間としての）フィードバック							
Continue to 統計リテラシー(2)↓↓↓							

統計リテラシー(2)

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

(1) 到達目標の達成度について評価をおこなう。

(2) 評価方法：

①定期試験またはこれに代わる特定の「大きめの課題」(50%)、授業期間中の小テスト、課題、受講態度の積極性など(50%)を総合的に判断する。()内の比率は目安である。

②授業への参加意欲及び積極的発表の客観的実績は、授業期間中の課題・小テストの評価とあわせて評価する。

受講態度には、教室内のものと、教室外のものの両方があり、具体的には、課題へのとりくみのほか、以下のような、授業への貢献を含む。

教員の指示にしたがい授業時間中に、または時間外にLMS上の交流ツール(担当者は今のところ京都大学のシステムを理解していないので、考慮できない場合もあることを了解願いたい)で、先に理解が進んでいる諸君が、クラスメートからの質問に答えて、教えてあげる、

また同様に授業時間内外で、問題を発見し、論点を提供し、建設的に議論をおこない、整理する、といった、積極的な受講態度及び実績は、加点の対象となる。

(3) 合格基準：

1. 授業中の私語、遊興その他の、授業への参加・集中を妨げる行動・言動による授業妨害は、致命的な欠格条件になる。

2. 1の基準で問題ないことを前提に、以下の基準で合格とする。

合格の最低基準は試験により計測可能な分野で到達目標のおおよその理解があること、これに加えて、教室での発表、自主的課題、LMSで確認できる貢献その他を通じ、それ以外の分野での理解度を測るに、全体として到達目標のおおよその理解があること、である。

[Textbooks]

授業はスライドを用い、そのイメージPDFは資料としてLMS上に公開の予定。

[References, etc.]

(References, etc.)

中原治『基礎から学ぶ統計学』(羊土社) ISBN:9784758121217

P. G. ホーエル『初等統計学 原書第四版』(培風館) ISBN:9784563008390

杉森滉一・木村和範・金子治平・上藤一郎『社会の変化と統計情報』(北海道大学出版会) ISBN:9784832967038

(Related URL)

[https://www.e-stat.go.jp/\(政府統計の総合窓口\(e-stat\) \)](https://www.e-stat.go.jp/(政府統計の総合窓口(e-stat)))

[https://www.stat.go.jp/index.html\(総務省統計局\)](https://www.stat.go.jp/index.html(総務省統計局))

[Study outside of class (preparation and review)]

毎回内容を確認し、内容を理解しようとする。わからないことをそのままにせず、前回までの内容を復習することが大切である。まとめてあとで勉強しようとするといけなくなる。

授業内容をよく理解して受講することは重要である。

統計学は、近代社会の自己認識の形である。社会はどうなっているか、を知るために統計が必要になった。

だから、最終的には社会認識に利用することが目的である。

その前提として、「個性」「変異」を持つ社会構成単位の全体の性質を知ることができるのか、そ

Continue to 統計リテラシー(3) ↓ ↓ ↓

統計リテラシー(3)

のための方法を知らなければならない。
この二つの面はよく分離されて研究し、教育される。
後者の面が今は取りあげられることが多い。教養科目、基礎科目でもそれだけで成り立っている科目があるから、これを勉強しようと思う人はそれらを選択した方がよい。
この授業では、良き市民であるためには、統計学の両側面を自分で統一することが必要であると考え、ともかく2つの面のそれぞれ基礎理解を目標にする。

自分で統計的研究への道を切り開こう。
上の考えに沿って、基礎的な内容なので、難しいことはしない。必要なことは以下のことである。
第1回から第8回
基礎的な数理統計学の参考書を参照しつつ、授業中の説明を自分で整理する。
第9回から第15回
授業中の説明を自分で整理する。
紹介される参考文献で読めるものは読む。
「政府統計の総合窓口」(e-stat) サイト、総務省統計局のWebページにアクセスして必要な情報を探せるようにする。
統計はなぜ今のような形にできあがったか、具体的にどう探せば良いのか、を理解する。
その上で、すべての統計を取りあげることにはできないので、最低限人口統計を解説する。
あとは各自の勉強である。

受講者によって現在の能力や知識の違いがあると思うので、想定される平均像に基づきやさしく講義します。
社会科学として統計を考察するということは多くの人が初めて経験すると思います。
このものの見方は、歴史や基礎法学に興味があって考えたことがある人以外には、新鮮だと思えます。最後まで話を聞いたけどわからないという人ができるかもしれません。
この科目が扱う内容は多くの分野の総合的な学習であり、今後の研究方法の基礎となる分野です。
もっとわかりやすく言えば、小学校以来学習することになっている「課題研究」，「探求」のための方法論研究の大学での続きであり、研究方法の中の主要な一分野です。
なお、それらをふまえて初学者にわかるよう授業しますので、数学、歴史、基礎法学などは理解の役に立ちますが、知らなくても履修に特別の不都合はありません。

[Other information (office hours, etc.)]

授業には時間制限があるが、その限りで、質問をうけつける。説明や討論が終わった後の授業時間中は、オフィス・アワーに相当すると考えてほしい。
メールアドレス：t-fujii@omu.ac.jp (本務校の学生からも受け取るので、京都大学の正規メールアドレスから表題をつけて出してください)